

プレスリリース

令和6年度トピック展

「はちまんたい市の土偶展」を開催します

市内の遺跡から見つかったユニークな土偶を紹介

【発表の要旨】

縄文人がつくった土偶は、その姿・形から女性をモデルとしているものが多く、祈りの道具としてまつりなどにつかわれていたと考えられています。その表情はとても豊かで、どれも個性的です。

本展では、八幡平市内の遺跡からみつかったユニークな土偶を紹介します。

- 1 会期** 10月8日(火)～12月8日(日)予定
※休館日を除く。
- 2 会場** 八幡平市博物館 体験ホール
- 3 付帯事業**
 - ・土偶ランプシェードづくり 10月19日(土) 10時～11時
 - ・土偶スタンプづくり 11月9日(土) 10時～11時※各イベントは定員10名

4 主な展示予定の土偶



かみとない 3
上斗内Ⅲ遺跡出土

上斗内Ⅲ遺跡からみつかった三角顔の土偶は、耳に穴をあけて、耳飾りをした女性を表しています。

大英帝国博物館に
行ったことあるよ



うったない 12
打田内Ⅻ遺跡出土

打田内Ⅻ遺跡の土偶は、上半分がみつかっており、長い腕をあごの下に置き何か考えているかのような表情です。

畑の持ち主さんが、
拾ってくれたんだよ



まつおかまいしかんじょうれっせき
松尾釜石環状列石出土

松尾釜石環状列石でみつかった土偶は、両腕はありませんがほぼ全身が残っています。昭和28年に慶應義塾大学の発掘調査によって下半身がみつかり、地元で保管されていた上半身と接合しました。やや上を向き、ポカンと口をあけた表情にはどんな思いが込められているのでしょうか。

【担当】

文化スポーツ課 生涯学習係

主事 田中美穂

電話 0195-74-2111 (内線 1144)